



### 巻頭特集 飯田下伊那生菓子組合

## 地域に美味しい生菓子を届けたい

飯田市や下伊那の生菓子店21店舗で構成されている飯田下伊那生菓子組合。毎月一度のペースで勉強会を開催し、互いに情報を共有しながら、さらなる技術向上に努めています。一方で生菓子の歴史などを伝える広報活動にも尽力。生菓子の魅力を発信しながら、地域に向けておいしい生菓子をつくり続けていこうとしています。



飯田下伊那生菓子組合の各店の名物生菓子。まんじゅうや最中、パイなど、和菓子から洋菓子まで種類は多岐にわたります

### かつての養蚕業の隆盛が菓子の需要を拡大させた

長野県の南端に位置し、江戸時代には飯田城の城下町として栄えた飯田市。明治から大正にかけて養蚕業が盛んになり、その好景気に支えられ、菓子の需要が一気に拡大したといわれています。

「養蚕は重労働ですから、仕事の合間に何度も甘いものを食べることで、『さあ、がんばって働くぞ』という英気を養っていたのだと思います」と教えてくれたのは、飯田下伊那生菓子組合の組合長を務めている白田繁さん。業者間で互いの繁忙期をサポートし合う「結」の制度があり、「お茶の時間やお礼の際など、頻繁にお菓子が出されていたのではないのでしょうか」と続けます。

当時は、菓子づくりに欠かせない砂糖がまた貴重品だった時代。砂糖の流通を安定させる目的で、明治25年に飯田下伊那菓子組合が誕生しました。さらに昭和に入ると、地元で売られる生菓子から流用用の日持ちのする菓子まで、菓子の種類が細分化。菓子組合の下部組織として、飯田下伊那生菓子組合が設立されました。

菓子組合が最盛期を迎えたのは、戦後から昭和30年代にかけて。「戦後は、誰もが甘いものを食べたがりましたから」と棚橋大祐さん。当時の菓子組合にはおよそ300軒、生菓子組合だけでも100軒を超える菓子店が所属していたといわれています。

### 月に一度の品評会で互いに切磋琢磨を重ねる

現在の生菓子組合に所属しているのは、飯田市や下伊那郡でまんじゅうや最中、焼き菓子、パイなど和洋菓子を製造販売している21店舗の生菓子店。その内の10店舗が東京を本拠とする東京和菓子協会の飯田支部として、毎月一度の勉強会「東和会」を実施しています。

「東和会が始まったのは、おそろしく昭和30年代以降。その頃から、互いにライバルでありながらも、一致団結してより良いお菓子をつくらうとする仲間同士でもあつて、城田茂さんが教えてくれました。」

毎回、東和会ではそれぞれの店舗が菓子を持ち寄り、品評会を実施。原材料の配合の割合などもすべて包み隠さずに教え合い、情報や技術の共有に努めています。

「たとえ配合が同じでも、かき混ぜ方などに各店の特徴が出ますから、まったく同じ味にはならないんです」と黒田誠さん。組合ではまだ若手の清水雄貴さんも「わからないこと

があれば何でも教えてもらえますし、毎回とても勉強になっています」と話します。

そのような取り組みの大きな成果となったのが、平成10年に開発された組合の共通菓子「伊那谷の屋台獅子」でした。「当時はまだ地域を代表する生菓子がありませんでしたので、組合に所属する10店舗で試行錯誤しながら開発したんです」と長沼万宣さん。

一般に初披露されたのは、同年に開催された7年に一度の祭り「飯田お練りまつり」。あらかじめつくっておいた分はすぐに完売し、急遽、予備の皮や餡を追加。それらもすべて売り切れてしまうほどの大盛況だったそう。

「伊那谷の屋台獅子」の大きな特徴は、製造をどこかの工場などに一括せず、各店で別個に行っている点。原材料や糖度は同じでも、それぞれに各店独自のこだわりを加え、微妙な味の違いが出るようになっています。「もしよかつたら、いくつかの店で食べ比べてみてください」と棚橋さん。味の違いを楽しめるはずと笑顔を見せました。

### 昔からある生菓子の魅力を伝えていきたい

現代は昔と違い、スーパーやコンビニなどに行けば無数の菓子が並んでいます。「そんな時代だからこそ、昔からある生菓子の良さを多くの人に知ってもらいたい」と城田さん。定期的に地域の小学校や中学校、高校、企業などに足を運び、菓子の歴史を

和菓子は、数人で集まって、お茶を飲みながら食べる機会が多い。一緒に同じおいしさを味わって、人と人とのつながりをつくらう存在なんです。

伝えたり、菓子づくり教室を開いたりするなど、生菓子の魅力発信にも努めています。年間の実施数は、学校関係を含め20〜30講座ほど。棚橋さんは「最近の子どもたちは、家で和菓子などの生菓子を食べる機会が少なくなつたと聞きます。できるだけたくさんのお子どもたちに、できたての生菓子のおいしさを知ってもらえたら」と前を見据えます。

「和菓子は、数人で集まって、お茶を飲みながら食べる機会が多い。一緒に同じおいしさを味わって、人と人とのつながりをつくらう存在なんです。」



地域の親子を対象とした「お菓子づくり教室」。子どもたちが地域の産業について学ぶ機会にもなっています



飯田下伊那生菓子組合の皆さん。前列左から「御菓子司 松寿堂」の黒田誠さん、「お菓子の店 はと錦」の清水雄貴さん、組合長を務める「宇寿田製菓」の白田繁さん、「松月」の長沼万宣さん。後列左から「得月」の棚橋大祐さん、「田月」の城田茂さん